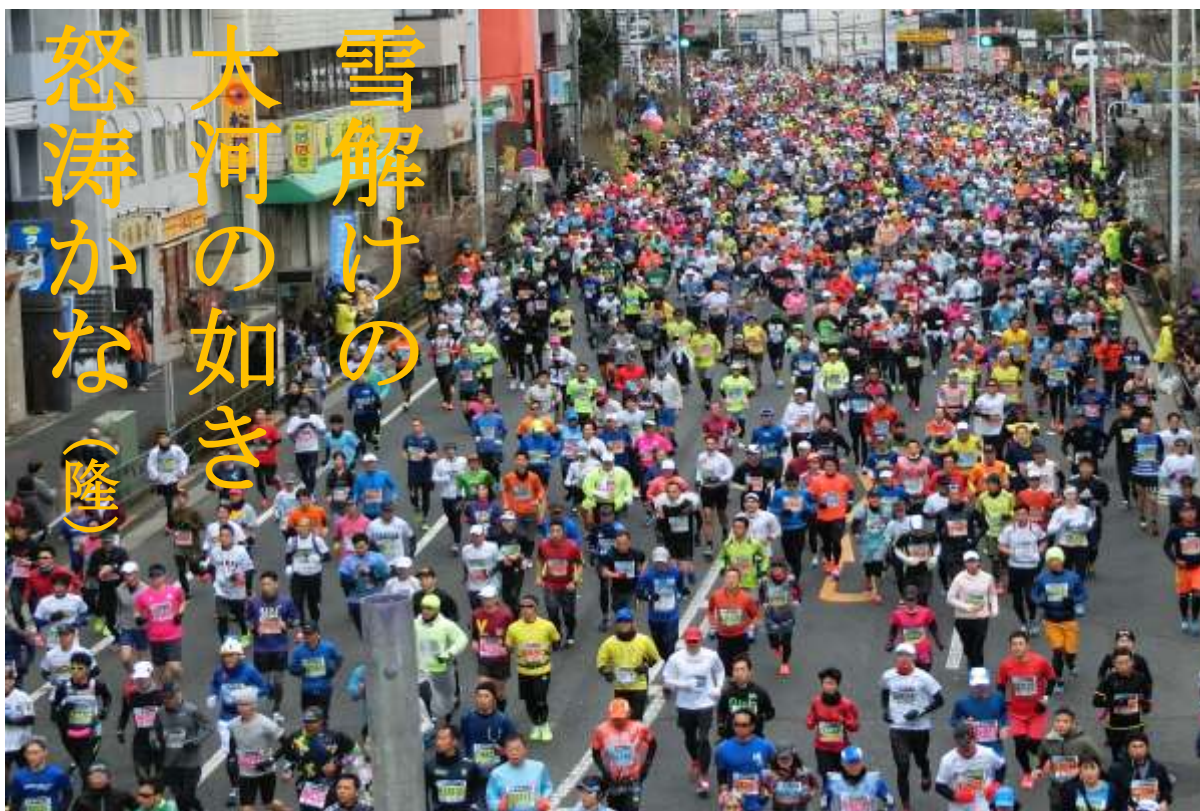


第八十二回フォト句優秀作品（30年3月12日）



雪解けの
大河の如き
怒涛かな
(隆)



釣れぬ筈花に化身のヤマメかな (隆)



待つ人に
心軽やか
春景色



早や七年復興念じ眼を入れる (正二)

寸評:

1) 雪解けの大河の如き怒涛かな 池田隆

恒例の東京マラソン。実に大勢の、多彩な人々がカラフルなユニフォームを着て参加している。

またこの時期の雪解川は水量と言ひ勢いといひ恐ろしいほどのエネルギーに満ちている。句そのものは、マラソンそのものには言及せず、人の流れを雪解けの大河と表現した手腕を買いたい。

2) 釣れぬ筈花に化身の山女魚かな 池田隆

ようやく芽吹いた山間を縫う清冽な流れ。手前にヤマブキを配した早春の風景を撮った落ち着いた画面だ。

この場合の花は桜ではなくこのヤマブキを指しているのであろう。花に化身の山女魚との一段と飛んだ発想は買うが、上5の「釣れぬ筈」がいかにも理屈っぽく全体のムードを壊しているのが惜しい。

例) 「木の芽風花の化身の山女魚かな」

3) 待つ人に心軽やか春景色 清水 勝

清水会長の久々の入選作。白梅に囲まれた大きな石碑の前の和装の娘さん。

どこか冷え冷えとした早春の雰囲気が漂う和やかな画面だ。

ただ句には問題点が多い。上5の待つ人にの“に”の使い方がぎこちない。

ここは人待ちてとしたいところ。また春景色という措辞も耳慣れない言葉だ。雪の冬景色とは言うが、春景色というとはなやかな桜の風景を想到してしまう。ここはやや控えめに“春の声”とでもしたらどうだろう。

「人待ちてはずむ心や春の声」

4) 早や七年復興念じ眼を入れる 矢澤 正二

あの悲惨な東日本大震災からもう7年も経過したのか。福島原発の処理も避難した住民の復帰もいまだ解決への道は遠い。

二人の僧侶がダルマに眼を書き込んでいる画面である。二人の眼差しから真剣さが感じられ、黒い背景に僧侶のヘッドラインが浮き上がり、地味な色調がことさらに印象的で、落ち着いた句もよくマッチし、タイミングの良い作品となっている。

句付



今回は平尾さんの出題、御馴染みミロのヴィーナスの写真である。

寸評：

今月は票が割れ、論評に値する作品はないので以下羅列します。

- 1) 恥知らず裸身晒せど無視される 平尾 富雄
- 2) 観客を手招きできずパスをされ 下山 健夫
- 3) もう私流行りの顔ではないかしら 下山 健夫
- 4) 生身ならみんなの視線浴びるのに 池田 隆
- 5) よく見たわガイドブックとそっくりよ 長尾 進一郎
- 6) 見つめつつ妻の映像消す男 松田 昌康
- 7) 気になるな失くした腕のもとの位置 中村 晃也
- 8) 鏡見て出腹を嘆く我がいた 矢澤 正二 以上